

杉の絆

Sugi
no
Kizuna

さんさんと降り注ぐ太陽の光。

静寂の森の中、新しい命が息吹を上げた。

たくましく大地に根を張り、長い年月をかけて
それぞれの歴史を刻む。

20年前に両町を結んだ杉は、固い絆となって

未来への無限の広がりを見せている。

両町を見守りながら、天に向かって伸びゆく杉は

再び、新たな歴史を刻んでいく。

菊陽町 & 屋久島町



ごあいさつ



菊陽町長
後藤 三雄

杉でつながった両町のさらなる繁栄を願う

屋久島町と菊陽町は、豊後街道菊陽杉並木に植栽されている屋久杉をご縁に交流が始まり、平成6年に旧屋久町と、平成20年には合併後の屋久島町とあらためて姉妹都市盟約を締結させていただきました。

姉妹都市盟約締結から満20年を迎えますが、これまでさまざまな分野で交流を続けてまいりました。世界自然遺産に登録されている屋久島町との20年に及ぶ交流の歴史は、私たち菊陽町民にとってかけがえない財産となっています。

このように両町の友好交流で着実に実を結んでまいりましたのは、関係者の皆さまの熱意とご尽力によるものであり、心から敬意を表し感謝申し上げます。

さて、昭和62年以降、豊後街道菊陽杉並木の保全復元のため植栽された屋久杉はしっかりと本町の大地に根付き、両町の発展を願うかのごとく天に向かって伸び続けています。

杉で結ばれた両町の絆が姉妹都市締結盟約20周年を契機に、これからもさらなる発展と繁栄、そして一層の友好関係を築いていけるよう努めてまいりたいと思います。

ごあいさつ



屋久島町長
荒木 耕治

両町の絆をさらに深めて共に発展する町へ

わが町は、平成19年10月の市町村合併を経て屋久島町となりました。屋久島時代に、屋久杉をご縁に始まった交流により姉妹都市盟約を交わして以来、すぎなみフェスタや屋久島町ふるさと産業まつり、両町の子ども会の交流事業などにおいて人や物産の交流を継承し、その絆をさらに深めてきました。

そして、20年の節目を迎えることができましたことをとてもうれしく感じております。

今や本町のふるさと産業まつりにおける菊陽にんじんをはじめとした菊陽町の物産は町民の楽しみとなっており、祭りに欠かせないものとなっています。

これまで20年にわたって交流にご協力をいただきました両町民の皆さまに、心から感謝申し上げます。

これからも、これまで育んできた交流の輪をさらに広げ、両町民の友好がいつそう深まる取り組みを進め、共に発展する町づくりを進めてまいりたいと思います。



菊陽杉並木公園「さんさん」



モツチヨム岳から見た尾之間集落 05



姉妹都市盟約を締結し、固い握手を交わす（平成20年2月29日菊陽町）

盟約20周年を記念して「屋久島の森」に植樹されたヤクタネ「ヨウウ」（平成26年11月8日菊陽町）

盟約20周年を記念して「健康の森公園」に植樹された春めき桜（平成26年11月25日屋久島町）

◆ 昭和 61 年

- 11月 慶長9年(1604年)ごろ、加藤清正公が屋久杉を植えたといわれる豊後街道菊陽杉並木の整備に必要な補植用の屋久杉を調達するため、建設省熊本工事事務所、熊本県と菊陽町の関係者5人が屋久町を訪問し、幼杉の譲り渡しを依頼

◆ 昭和 62 年

- 5月 杉並木の保全復元を計画的に推進するため、建設省、熊本県、熊本市、JR九州熊本支社、九州電力(株)、NTT熊本支店、大津街道杉並木保存会、菊陽町で協議会を設置(会長、熊本県知事)
- 6月 豊後街道菊陽杉並木第1回植樹式(屋久町から町長、議長が菊陽町を訪問)
- 8月 屋久町から議員、職員行政視察のため菊陽町を訪問(16人)
- 11月 菊陽町から議員、町長など行政視察のため屋久町を訪問(25人)

◆ 昭和 63 年

- 11月 第1回菊陽町農業祭に屋久町から参加(15人)
 - ・ 屋久町特産品の販売
 - ・ 両町長記念植樹
 (以後、子ども会や婦人会などの各種団体で相互交流が図られる)

◆ 平成元年

- 10月 屋久町町制30周年記念式典並びに屋久杉自然館落成式に菊陽町から参加(8人)
- 11月 菊陽町から屋久町へ嘱託員研修(39人)

◆ 平成 2 年

- 10月 1カ月間職員交流研修
 - ・ 菊陽町から屋久町へ1人、屋久町から菊陽町へ2人

◆ 平成 3 年

- 4月 屋久町産業祭へ菊陽町から参加(32人)
 - ・ 馬場楠獅子舞友情参加
- 7月 屋久町から菊陽町子ども会との交流のため菊陽町を訪問(24人)
- 11月 菊陽町「陽・産・参祭り」に屋久町から参加(22人)

◆ 平成 5 年

- 4月 屋久町産業祭へ菊陽町から参加(28人)
 - ・ 菊陽吹奏楽団演奏訪問
- 8月 姉妹都市盟約協議のため屋久町から菊陽町訪問(2人)
- 9月 姉妹都市盟約について両町相互に申し入れをし、両町議会全員協議会に報告。両町受諾
- 11月 '93菊陽町ジョイントフェスタに屋久町から参加(25人)
 - ・ 姉妹都市盟約調印の日程、事業計画などについて基本合意。両町町長、議会議長、関係職員出席
 - ・ 姉妹都市盟約承諾書の取り交わし(両町長)

◆ 平成 6 年

- 4月 姉妹都市盟約調印式(4月29日屋久町)
- 5月 姉妹都市盟約提携式(5月12日菊陽町)
 - ・ 姉妹都市盟約記念誌「杉の緑」発刊
- 8月 森の精除幕式(屋久町)
- 11月 森の精除幕式(菊陽町)

◆ 平成 7 年

- 3月 ふれあいの森公園に屋久杉の幼木を植樹

◆ 平成 12 年

- 1月 前年9月に台風18号で倒れた杉並木の補植用に苗木約150本を屋久町から譲り受け、その植樹の記念に菊陽杉並木公園の一角に「屋久島の森」を設置



豊後街道菊陽杉並木(菊陽町)



縄文杉(屋久島町)

◆ 平成 16 年

- 11月 姉妹都市盟約10周年を記念し、縄文杉のクローン苗の提供を受け、「屋久島の森」へ植樹

◆ 平成 17 年

- 7月 菊陽町合併50周年式典に屋久町長が参加

◆ 平成 19 年

- 10月 屋久町と上屋久町が合併し屋久島町となる

◆ 平成 20 年

- 2月 屋久島町と姉妹都市盟約締結(2月29日菊陽町)
- 4月 屋久島町産業祭へ菊陽町から参加

◆ 平成 24 年

- 11月 荒木耕治屋久島町長初来庁記念植樹

◆ 平成 25 年

- 9月 菊陽中部小学校の新校舎多目的室の床と腰壁に屋久島町からの提供を受け、屋久島地杉を使用
- 11月 屋久島世界自然遺産登録20周年

◆ 平成 26 年

- 8月 屋久島町口永良部島新岳噴火見舞いにコメ770キロを菊陽町から贈呈
- 11月 姉妹都市盟約20周年を記念し、屋久島地杉をはじめ、屋久島に自生する樹木を菊陽杉並木公園「屋久島の森」に植樹。併せてパネル設置
 - ・ 姉妹都市盟約20周年を記念し、春めき桜を屋久島「健康の森公園」へ植樹

◆ 平成 27 年

- 3月 姉妹都市盟約20周年記念誌「杉の絆」発刊

菊陽町

位置

菊陽町は、熊本県の北東部に位置し、西は政令市である熊本市に、東はかつての宿場町である大津町に隣接しています。世界一のカルデラ火山として知られ、世界ジオパークにも認定された阿蘇を望むことができます。阿蘇に源を発する一級河川の白川に育まれた肥沃な中流域に位置しています。

南部には熊本の空の玄関口である阿蘇くまもと空港があり、国内外に航空機が飛び立っています。北東部にあるセミコンテックパークは半導体関連企業や県立技術短期大学校などが立地し、先端技術が集約しています。町の東西に大分、長崎を結ぶ国道57号とJR豊肥本線が通っていて、原水駅、三里木駅、光の森駅の3駅が立地しています。

地勢

町の中央部を東西に流れる白川を境に南北にローム台地が広がっています。白川沿いの一帯は河川の中流部に広く分布する扇状地性低地で、これを中心に南北に標高40～100メートルのゆるやかな丘陵地が広がっています。一部には標高100～200メートルのやや高いローム丘陵がありますが、80%はゆるやかな丘陵地です。

農地が全体の約50%で、次いで宅地が17%、山林が12%の順になっています。

気候は、年平均気温約17℃の年間最高気温37.9℃、年間最低気温-6.1℃で、年間降水量は約1,900ミリです(平成25年)。

人・緑 未来輝く生活都市



菊陽の中央台地

屋久島町

位置

屋久島町は、鹿児島市の南方約135キロ、鹿児島県本土の南方約60キロの海上にあり、屋久島とその西北西約12キロにある口永良部島の2島からなっています。

総面積は540.98平方キロで、内93%を占める屋久島は、岩質のほとんどが花崗岩から成る東西距離28キロ、南北27キロ、周囲132キロの円形の島です。九州最高峰の宮之浦岳(1,936メートル)を筆頭に、標高1,000メートル以上の山が45座以上あり、多くを山岳部分で占められていることから、洋上のアルプスと呼ばれています。

口永良部島は、周囲50キロ、最高峰657メートルの新岳がそびえ、ヒョウタン形をした活火山を有する島です。

地勢

屋久島は全体が険しい山々から形成された急峻な一大山岳島です。安房川をはじめ140余りの中小河川が島の中央部から放射状に流れ、いずれも急勾配で河床を深く浸食し、随所に美しい滝を形成しています。

気候は、年平均気温約20℃で、海からの水蒸気が山岳部に当たって雨となり年間降水量は平地で約4,000ミリ、山頂部においては10,000ミリ近くに達する温暖湿潤な気候となっています。植生は、海岸部の亜熱帯に近い暖温帯から山頂部の亜寒帯に近い冷温帯までの幅広い温度環境にあり多様な植物の垂直分布を見ることができます。

口永良部島は、霧島火山帯の中にあり、火山活動によって形成された素晴らしい景観を有する火山島で、島全域が国立公園に指定されています。

未来に向けて人と自然が共生する町



永田岳

菊陽町



菊陽の「キ」を圖案化し、平和の鳥とのびゆく町を表現したもの(昭和61年制定)。



町花 菊

キク科の多年草。秋に美しい花をつけ香りが高く、種類も多く、高貴な花として、日本では古くから鑑賞用として愛されています。菊の嚙を飲めば長寿を保つといわれ、昔、菊の花を酒に浸して延命長寿の妙薬を作ったといわれています。菊陽の菊を意味し、町花としてふさわしい花です。



町木 杉

約400年の歴史をもつ杉並木は、東西12キロにわたって続き、車窓からの眺めは素晴らしく、遠く阿蘇の山脈が、樹間から望めます。大地にしっかりと根を張り、天に向かって伸びている姿は、菊陽町の将来を象徴しています。



町の鳥 ひばり

鳥類ヒバリ科。日本各地の畑地、草原などに多く、空中高くのぼってさえずり、鳴声がよいのでよく飼われています。高空をさえずりながら飛ぶ習性は、未来に羽ばたく菊陽町の姿を象徴しています。

屋久島町



屋久島の「Y」をモチーフにし、緑の大地・宮之浦岳を緑で表現、これを包み込んだ紺が太平洋を表現し、海に浮かぶ屋久島をイメージしている。豊かな自然に包まれた人々が、悠久の自然や歴史、文化を大切に融合し、未来へと飛躍する様を象徴している(平成19年10月1日制定)。



町花 ヤクシマシャクナゲ

5月から6月にかけて淡いピンク色の美しい花を咲かせ、屋久島の山々を鮮やかに彩ります。高さ2~3メートルで、葉の裏側は綿毛におおわれ、花びらは5枚あります。



町木 屋久杉

屋久島の標高1,000メートル以上に自生し、特に推定樹齢千年以上の杉を屋久杉と呼びます。樹脂を多く含み朽ち難く、その美しい木目から世界の銘木として珍重されています。



町鳥 ヤクコマドリ

コマドリの亜種で、スズメ目ツグミ科に属し、背から尾が暗赤褐色、胸が赤褐色でふちに黒帯があり、腹部が白の鳥です。鳴き声がヒンカラカラと馬の鳴き声に似ていることからコマ(駒)ドリと名が付いたと言われています。

町民憲章 平成元年11月1日制定

私たち菊陽町民は、郷土の繁栄を願い、住みよい町をつくるため力を合わせることを誓って、この憲章を定めます。

1. さわやかなあいさつで、心のふれあう町をつくりまします。
1. たくましい青少年を育て、未来を拓く町をつくりまします。
1. 健康で、思いやりのある家庭を築き、安全な町をつくりまします。
1. 仕事に励み、活力ある町をつくりまします。
1. 伝統を重んじ、緑豊かな、文化の薫る町をつくりまします。

町民歌

伸びる菊陽

作詞作曲：吉川幸義 編曲：岩代浩一

- (1) 新生都市の朝ぼらけ
今ぞ菊陽舞い昇る
進む時代に歩調を合わせ
拓く希望のパラダイス
- (2) 九州一と誇りもつ
高遊原の大空港
光る銀翼未来の夢を
乗せて世界を翔けめぐる
- (3) 日本の象徴白菊の
永久の薫りの気高さよ
招く文化の工場の群も
歴史を彩る杉並木
- (4) 流れも清き白川の
水も豊かな大耕野
阿蘇の情熱たたえてここに
伸びる菊陽栄えあれ

屋久島憲章 平成19年10月1日決議

前文

地球と人類の宝物である屋久島。この島は、周囲132キロ、面積503平方キロの日本で5番目に大きい島である。屋久杉を象徴とする森厳な大自然に抱かれ、神々に頭をたれ、流れに身を浄め大海の恵みに日々を委ねて人々が生きた島。この島は、はるかな昔から人々の魂を揺さぶりつづけ、近世森林の保全と活用で人々が苦しみ葛藤した島である。そして今、物質文明の荒波をようように免れた屋久島は、その存在そのものが人間に対する啓示であり、地球的テーマそのものである。この島に住む私たちは、この屋久島の価値と役割を正しくとらえ、自らの信念と生きざまによって、この島の自然と歴史に

条文

1. わたくしたちは、島づくりの指標として、いつでもどこでもおいしい水が飲め、人々が感動を得られるような、水環境の保全と創造につとめ、そのことによって屋久島の価値を問いつづけます。
2. わたくしたちは、自然とのかかわりかたを身につけた子どもたちが、夢と希望を抱き世界の子どもたちにとって憧れであるような豊かな地域社会をつくりまします。
3. わたくしたちは、歴史と伝統を大切にし、自然資源と環境の恵みを活かし、その価値を損なうことのない、永続できる島づくりを進めます。
4. わたくしたちは、自然と人間が共生する豊かで個性的な情報を提供し、全世界の人々と交流を深めます。

立脚した確かな歩を始める。そのため、この島の自然と環境を私たちの基本的資産として、この資産の価値を高めながら、うまく活用して生活の総合的な活動の範囲を拡大し、水準を引き上げていくことを原則としたい。この原則は、行政機関はもちろん、屋久島に係わる全ての人々が守るべき原則でありたい。国の自然遺産への登録も、鹿児島県の環境文化村構想も、この原則を尊重し、理想へ向けて、その水準を高く100年の計を誤らず推進されることを願うものであり、これを契機として、次のことを目標とし、ここに屋久島憲章を定めます。

町民歌

屋久島町 町民歌

作詞：竹中浩昭 作曲編曲：新田祐樹

- (1) 仰ぐ八重岳朝日を浴びて
今日も見守る緑の島を
幾千年の歳月を重ねて
屋久杉の森いま何を想う
世界遺産の誇りを胸に
のびやかに生きる屋久島町
- (2) 揺れる石楠花遊ぶ屋久鹿
浜に海亀いのちの島よ
明日の希望に心ふるわす
子供らの目にいま何を映す
ここがふるさと愛する島で
たくましく生きる屋久島町
- (3) 躍る黒潮トビウオ跳ねて
夢のしづきのうずまく島よ
口永良部には湯けむり香り
満天の星いま誰を照らす
笑顔つないで文化つないで
かがやいて生きる屋久島町

菊陽町

菊陽町は九州の中核都市である熊本市の北東部に隣接した人口39,938人（平成27年2月末現在）の町です。

町の前身「菊陽村」は菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村の3村が合併して昭和30年に誕生しました。その後、内陸地帯の新産業都市として工業化と農業の転換が進み、村民生活の高度化と相まって昭和44年1月、町制施行で「菊陽町」になりました。以後、主なできごとは次のとおりです。

昭和44年	町制施行、菊陽村から菊陽町になる	平成12年	総合交流ターミナル施設「さんふれあ」オープン
昭和46年	熊本市計画区域に編入される	平成13年	ソニーセミコンダクタ九州(株)熊本TEC操業開始
昭和47年	中央公民館完成	平成14年	町内巡回バス運行開始
昭和48年	町民体育館完成	平成15年	菊陽町図書館オープン
昭和49年	武蔵ヶ丘支所開庁	平成16年	人口30,000人突破
昭和53年	役場新庁舎完成 菊陽にんじんが国の野菜指定産地になる	平成18年	JR光の森駅開業
昭和59年	熊本テクノポリス計画で母都市としての地域指定を受ける	平成20年	富士フィルム九州(株)操業開始
平成元年	町民憲章、町木(杉)、町花(菊)、町の鳥(ひばり)制定	平成21年	鹿児島県屋久島町との姉妹都市盟約締結
平成4年	菊陽バイパス全線、菊陽空港線一部開通	平成25年	くまもと臨空メガソーラー完成
平成6年	鹿児島県屋久島町(現屋久島町)と姉妹都市盟約を締結	平成27年	菊陽町光の森町民センター「キャロピア」オープン
平成7年	ふれあいの森公園完成		
平成10年	菊陽杉並木公園「さんさん」オープン		



菊陽杉並木公園「さんさん」[入道水眼鏡橋]



農産物直売所や天然温泉、食事処のある「さんふれあ」



イベントやコンサートなどを行うホール併設の菊陽町図書館



JR光の森駅



菊陽町巡回バス「キャロッピー号」



菊陽中部小学校落成式

屋久島町

屋久島町は平成19年10月1日に鹿児島県の上屋久町と屋久町が合併して誕生した人口13,293人（平成27年2月末現在）の町です。

屋久島の自然は、人々の生活の中で利用され、保護され、残されてきた歴史があります。その歴史の中で優れた自然がそこで生活する人間との関わりで作り上げられ、自然資源の保護と活用により人々の暮らしの豊かさを実現することを目指しています。

昭和33年	上屋久村が町制を施行、上屋久町となる	平成元年	種子・屋久航路に鹿児島商船株ジェットfoil「トッピー」就航
昭和34年	下屋久村が町制を施行、屋久町となる	平成2年	㈱老舗恵命堂屋久島工場、新製薬工場(細粒工場)完成
昭和35年	屋久島電工株式が水力による電気事業を開始	平成5年	屋久島が世界自然遺産に登録
昭和36年	屋久島航路に折田汽船株 第20折田丸就航	平成6年	財団法人「屋久島環境文化財団」設立
	種子島一屋久島航路に鹿児島商船株屋久丸就航	平成8年	熊本県菊陽町と姉妹都市盟約を締結
昭和39年	霧島・屋久国立公園に指定される	平成11年	上屋久町地域福祉センター「縄文の苑」完成
昭和40年	町営永田診療所開設	平成12年	「屋久島環境文化村センター」オープン
昭和42年	島内一周道路(西部林道)完成	平成14年	屋久町総合福祉センター「こまどり館」開館
昭和43年	屋久島電信電話局が完成	平成19年	屋久町まごころ市「ぼん・たん館」、屋久町農業支援センター開館
昭和44年	ダイヤル即時通話開始	平成23年	「世界自然遺産会議」開催
昭和47年	町営衛生へき地診療所開設	平成25年	皇太子同妃両殿下が世界自然遺産会議へご臨席
昭和48年	町営船「太陽丸」(52トン) 口永良部～宮之浦間に就航		
昭和54年	屋久島電工安房第二発電所完成		
昭和55年	農林水産祭「むらづくり部門」で麦生集落が天皇杯獲得		
昭和56年	口永良部火力発電所完成		



まごころ市「ぼんたん館」



上屋久町・屋久町合併調印式



屋久町開庁式



屋久島町立中央中学校開校式



屋久島町制5周年記念



永田中学校閉校記念



菊陽町光の森町民センター「キャロピア」



世界自然遺産登録20周年記念

誇りある歴史に包まれ、未来へ羽ばたく

菊陽町

今からさかのぼること約410年前——。加藤清正は熊本市と大分県大分市鶴崎を結ぶ「豊後街道」を整備し、敵が攻めてきたときの侵入防止や熊本城修築などの目的で20キロの長さに渡り、杉を植えました。現在は菊陽町を中心に杉が立ち並ぶだけですが、この歴史的遺産を守ろうと屋久島から屋久杉の苗木を取り寄せたことから屋久島町(旧屋久町)との交流が始まりました。歴史あふれるこの豊後街道菊陽杉並木は1986年に「日本の道百選」にも選ばれています。

「後の世のため」が口癖だった加藤清正は土木事業にも力を注ぎ、馬場楠地区に鼻ぐり井手を築きました。この鼻ぐりの仕組みは全国に類を見ないもので、現在でも約181ヘクタールの田畑を潤しています。

県道311号沿いに約4キロに渡ってきれいに整備されている鉄砲小路地区の生垣は祝日には国旗が掲揚され、散策路として親しまれています。この地区名は加藤家の改易で熊本藩主になった細川忠利が鉄砲衆を置いたことに由来します。「くまもと景観賞」や「くまもと歴町50選」などを受賞し、地域でこの生垣を守る取り組みが行われています。



馬場楠の獅子舞



大型複合遊具があるひかりのもり公園



大勢の花見客が訪れる菊陽杉並木公園「さんさん」



菊陽武蔵剣豪太鼓



「くまもと景観賞」「くまもと歴町50選」に選ばれた鉄砲小路の生垣



菊陽町夏まつり(花火)

杉と桜と菜の花に囲まれて走る九州横断特急(豊後街道菊陽杉並木)



上津久礼眼鏡橋



お法使祭



南郷往還跡



蘇古鶴神社の楼門



豊後街道菊陽杉並木



阿蘇くまもと空港



鼻ぐり井手(外部)

右: 加藤清正
左: 頼山陽詩碑

訪れる人に大きな驚きを与える大自然

屋久島町

平成5年に日本で初めて世界自然遺産に登録された屋久島は、九州一高い1,936メートルの宮之浦岳がそびえる山の島です。海岸からそそり立つ山々は屋久杉をはじめ、さまざまな種類の樹木におおわれており、島の90%が森林です。サンゴ礁には熱帯魚が遊び、砂浜にはウミガメが産卵に上陸します。山々に降る多量の雨と輝く太陽が豊かな森を育てました。海と山、森と水、そして雨と太陽が一つになって、表情豊かな屋久島の自然をつくり出しています。

このような豊かで傑出した自然を求めて、年間を通じ多くの観光客が訪れます。特に最近では「環境保全のあり方」や「自然と地域のあり方」など、自然と人の関わりについて学ぶ教育旅行もとても盛んです。



ウィルソン株の内部から



湯向温泉



平内海中温泉



千尋の滝



蛇之口滝



大川の滝



ふるさと産業祭での棒踊り



神山祭り



高速船ロケット



口永良部島覆待の立神



一湊浜まつり船団パレード

菊陽町

第1次産業では、米、麦、野菜、葉たばこ、トマト、花き、牛馬などの農畜産物が生産されています。国から産地指定を受けている「菊陽にんじん」は全国ブランドとして出荷されています。

第2次産業では、交通の便や豊かな地下水、生活都市としての恵まれた立地基盤を軸に企業の立地も盛んで、町の豊かな自然に育まれた野菜や果物、肉用牛などを原料とした加工業に加え、半導体や液晶ディスプレイなどの製造業も盛んです。

第3次産業では、都市化の進展で住宅が立ち並ぶようになり、大型スーパーや生活雑貨、多様な飲食店、ファッション関連の店舗が相次ぎ出店。一大ショッピングタウンを形成しています。



観賞用の花きの栽培



ショッピングモール



ショッピングタウン



三里木商店街



総合交流ターミナル「さんふれあ」



ソニーセミコンダクタ株式会社



富士フイルム九州株式会社



畜産風景



稲刈り



にんじん収穫

屋久島町

屋久島町の産業構造は第1次産業が13.2%、第2次産業14.9%、第3次産業71.6%（平成22年国勢調査）となっています。

第1次産業の農業では、山腹の斜面を利用したポンカン、タンカン、パッションフルーツなどの果樹類の他、お茶の栽培が盛んです。水産業では鯖やトビウオ漁などが行われており、第6次産業への拡大が図られています。

第2次産業では、炭化珪素の化学工場、薬剤工場、焼酎工場があり、地場産業としては屋久杉加工場、鯖節製造工場があります。

第3次産業では、世界遺産登録以降、大型店や宿泊施設、飲食店などの進出が増えており、観光に関連した産業が伸びています。



安房港トビウオ水揚げ



屋久島首折れサバ水揚げ



屋久島電工株式会社



老舗恵命堂 屋久島製菓工場



魚食普及



ポンカンはさみ入れ式



旭日牧場

菊陽町

にんじんやカライモ、メロン、スイカ、いちご、茶など多くの農産物が生産されています。特に、にんじんは国の産地指定を受け「菊陽にんじん」として出荷されています。この甘い菊陽にんじんを焼酎にした本格焼酎「酔紅」はすっきりした味わい。「巨人の星」の作者で町在住の川崎のぼる氏がラベルのデザインをしています。

郷土料理は馬肉を使った鍋料理が親しまれ、馬刺しやもつ鍋なども来訪者に喜ばれる料理です。



にんじん焼酎「酔紅」



菊陽町マスコットキャラクター「キャロットピー」



菊陽にんじん



キャロットジャム



馬肉と菊陽にんじん、菊陽産の野菜を使った郷土料理「馬が鍋」



みそ・しょうゆ・にんじんドレッシングなど



野菜盛り合わせ



屋久島町

屋久島は四季を通して季節の味覚が味わえます。春はトビウオ、トコブシ、新茶、ジャガイモにわらび、つわぶき、たけのこなどの山菜。夏はパッションフルーツ、マンゴーなどの亜熱帯の味覚。秋はイセエビ、アサヒガニ、ぼんかんなど旬の味。冬はミズイカ、実エンドウ、たんかんなどの味が楽しめます。特産品は屋久杉製品や屋久島ワイン、焼酎、ポンカン、タンカンなどがあります。



森の恵み紅茶屋久島



まごころ市「ほんたん館」



トビウオ

タンカン



屋久杉工芸品



心を通わす交流で菊陽町と屋久島町の魅力に出会う

両町の交流が始まり、はや20年。その間子ども会や婦人会、各種団体など多くの人が心を通わしながら親睦を深めてきました。私たちの絆は、これまで重ねた交流と今後の変わらぬ友情でますます固く結ばれることでしょう。



ふるさと産業祭開会式



菊陽町特産品販売ブース

菊陽の味を屋久島へ

屋久島町ふるさと産業祭の菊陽町特産品販売ブースには新鮮な野菜などを買い求める人が多く並び、短時間で完売します。「いつも楽しみにしている」との声も聞かれ、両町のつながりを直接感じる機会です。



屋久島の森



ヤクタネゴヨウ

屋久島の自然が憩いの場に

両町の友好を願い、菊陽杉並木公園の一角に設置された「屋久島の森」。屋久島自生の樹木が植えられ、『世界自然遺産の島』と書いた石碑が設置されています。現在、町民の憩いの場として親しまれています。



菊陽町「屋久島の森」



屋久島町「くぐり杉」

子どもたちの交流

屋久島町と菊陽町の子どもたちは1年ごとにお互いの町を訪れ、交流を行います。菊陽町からの参加者は、普段は体験できない素晴らしい自然を感じながら、屋久島町の子どもたちとの交流を行っています。



すぎなみフェスタ開会式



屋久島町特産品販売コーナー

屋久島の味を菊陽へ

すぎなみフェスタの屋久島町特産品販売コーナーでは、屋久島特産のかんきつ類「たんかん」、漁獲量日本一のトビウオや屋久杉を使った箸などが販売され、訪れた人の目を引きまします。両町のつながりを知り、距離が縮まる一日です。



屋久島地杉



菊陽中部小学校多目的室

屋久島から菊陽への贈り物

菊陽中部小学校の多目的室には、屋久島町寄贈の屋久島地杉を使っています。地杉が中部小学校の教室に使われるまでの工程をパネルにし、屋久島町の地杉と学校の関係を児童や保護者、地域の皆さんに紹介しています。



菊陽町役場「森の精」



屋久島町「二代大杉」

女性たちの交流

菊陽町地域婦人会と屋久島町女性団体連絡協議会は、約20年にわたり相互訪問による交流活動を続け、お互いの活動について意見を交わし見聞を広めてきました。これからは親睦と友好の絆を深めていきます。



森の精

製作：石原 昌一 氏

姉妹都市盟約記念として平成6年8月、屋久島ふれあい広場に、同年11月、菊陽町役場に同じ彫刻「森の精」を設置。遠く離れた両町の間を行き交うようなその姿は二つの町の友情のシンボルになっている。屋久杉をきっかけに深まってきた両町の絆は、これからも続く。

問い合わせ

菊陽町総務部総合政策課

〒869-1192 熊本県菊池郡菊陽町久保田 2800

☎ 096(232)2112 FAX 096(232)4923

屋久島町企画調整課

〒891-4207 鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田 469-45

☎ 0997(43)5900 FAX 0997(43)5905